

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2018.12.No256

12月号

## 目次

第43回 (一社)北海道建築士会  
全道大会(土別大会)を終えて……………1

特集 第43回一般社団法人北海道  
建築士会全道大会(土別大会)……………2

青年・女性の窓……………7  
[No.89 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]

information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>



## 第43回 (一社)北海道建築士会全道大会(土別大会)を終えて

第43回 (一社)北海道建築士会全道大会(土別大会)実行委員長

一般社団法人 北海道建築士会土別支部 支部長 **土岐 浩二**

平成最後の全道大会となった土別大会は、全道32支部会員の皆様と、青森県、宮城県、秋田県、岩手県、大阪府、大分県建築士会並びに多くのご来賓のご臨席を賜り、無事終了することができましたことに実行委員会を代表し心から御礼申し上げます。

また、本大会にご支援いただきました協賛団体、そして、本部事務局・役員・各委員会役員の皆様には、準備段階から多大なご協力を賜り改めて感謝申し上げます。

お蔭を持ちまして、当日は、心配されていた台風の影響もなく穏やかな秋の陽ざしのなか、大会スケジュールの全てを、概ね予定通りスムーズな運営ができたことに、ほっと胸を撫でおろしているところです。

会員数の少ない我支部での初開催であり、少数精鋭となった実行委員会は、一人何役もこなさなければならぬなか、分科会を3会場での開催としたため、バス移動や昼食時間の細やかな調整が必要となり、準備不足や運営の不手際など心配な点が多々ありましたが、懇親会終了時には多くの皆様から「良い大会だった」との声をかけて頂きました。

また、前日の青年サミットにも80名を超える皆様にサフォークジンギスカンを楽しんでいただきました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、大会に寄せられました全道建築士の心温まるご支援と友情に感謝申し上げ、「豊かな地域社会、ふる里の歴史や文化」を未来へつなぐことをお誓いし、大会終了のお礼といたします。



実行委員長挨拶



基調講演



会長表彰者受賞者記念撮影



懇親会鏡割り



A分科会（女性委員会）



A分科会コメンテーター 加藤氏



B分科会（まちづくり委員会）



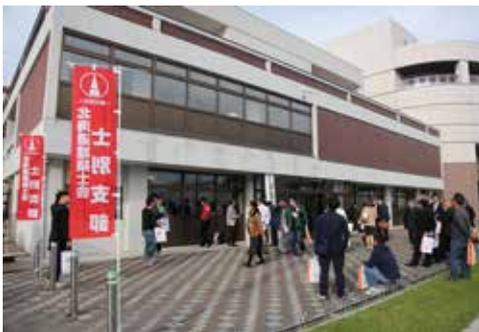
A分科会（参加者の様子）



B分科会（参加者の様子）



分科会（エトセトラ）



士別市民文化センター



# 第43回一般社団法人北海道

## 集え！最北インター

大会テーマ：未来へつなぐ

2018. 10. 5・6



綱領朗読（飯田支部青年委員長）



実行委員長挨拶（土岐士別支部長）



式典会場（エトセトラ）



大会長挨拶（高野会長）



表彰者記念撮影



基調講演（田中 義和 氏）



B分科会講師 斐田氏・井上氏・早川氏



C分科会（青年委員会）



C分科会講師アシスタント 今泉氏・講師 今田氏



青年サミット（エトセトラ）



青年サミット（高野会長挨拶）



青年サミット（参加者の様子）羊飼いの家

# 建築士会全道大会（士別大会）

## チェンジのまちへ

天塩の流れ 人と大地の躍動

士別市民文化センター 他



机上訓練体験コーナー



懇親会（エトセトラ）



オープニング（ヒューマンビートボックス）



余興（ジャズミニライブ）



鏡開き



懇親会参加者の様子



次期開催地PR（網走支部）

## 分科会報告

### A 分科会 未来へはばたく力を育てる～子どもと地域と学校建築～

女性委員会

女性委員会委員

須藤志津子 (釧路支部)



A分科会は糸魚小学校を会場とし講演会と施設見学会を企画いたしました。

準備段階では、分科会会場と糸魚小学校迄の移動に35分程かかるとの事で見学会をあきらめ講演会だけにする案ができました。しかし士別支部のご尽力により、分科会会場を糸魚小学校にする事が可能となり、講演会と施設見学会を実施いたしました。

最初に(株)アトリエブク専務取締役の加藤 誠様を講師に迎え、講演「自然光あふれる学び舎」の内容でお話し頂きました。加藤様は設計するにあたって多くの人と意見を交換し、糸魚小学校(現在児童34名1学年1クラス)の小規模校の良さ=親密な関係性を重視し設計したとの事です。

プランとしては、

- 1 南北に教室を配置し体育館を一体化。
- 2 気候的に半年間は室内で過ごす為、廊下の面積を集約して中央

- 3 建物の内部を一体化したことにより、エネルギーの集約をした。
  - 4 中央のトップライトを設けることにより、明るさの確保だけでは無く換気も供給する。
  - 5 構造はRC造一部鉄骨造・木造だが、梁にはエゾ松・トド松の集成材を使用している。
  - 6 建物をコンパクト化し敷地の有効活用をする。
- などの内容を講演して頂きました。そのあと、見学会となり、安達教頭先生と加藤様の案内と説明で建物の内部及び外観を見学しました。

- 1 照明が無くともトップライトからの光で明るい。
- 2 玄関が4ヶ所有り、畑や運動場



体育館で行われた講演会

- 3 に行きやすい。
- 3 建物中央に卵型の音楽室。
- 4 床暖の全室暖房で、どこにいても暖かい。
- 5 図書室は小上がりやパソコンスペースが有り、低い本棚。など、いつまでも居たいスペースになっていました。又パソコンは生徒の人数分設置して有り、いつでも自由に使い色々な事を調べる事が出来るそうです。講演でお話と図面等を見るだけではなく、実際に糸魚小学校を見学して、とても過ごしやすい空間を実感しました。自分又子供も小学生の時にこんな小学校で過ごしたかったと思いました。

今回の分科会の実施にあたり、色々準備して頂いた方々にお礼を申し上げます。



小学校の前で

### B 分科会 マチの知名度アップから学ぶ!! 未来へつなぐまちづくり

まちづくり委員会

まちづくり委員会委員

北野 学 (名寄支部)



剣淵町の「絵本の館」を会場に、士別市、剣淵町、和寒町から、それぞれの子を代表し、知名度アップの活動をされている3名の方々を招き、お話を伺いました。「絵本の館」はけんぶち絵本の里活動の核となる施設で、約3万冊の絵本を蔵書し、第12回公共建築賞優秀賞を受賞した建物です。平屋で回廊型の間取りは、子供たちが元気に活動できるよう設計されたものです。

初めに剣淵町長の早坂純夫様より、けんぶち絵本の里30年の生い立ちと、発展を語っていただきました。早坂様自身も、絵本の里の創成期から深くかかわってこられ、町職員時代に「絵本の館」に務めていたこともあり、絵本に対する熱い思いを感じるお話でした。毎年300点ほどの応募がある絵本コンクールの開催や、映画「じんじん」の舞台となるなど、順調に発展し、まちの活性化に繋がっているようです。

士別市からは、「サフォークのまち」として中心的活動をされている井上久嗣様が、圧倒的な羊の知識をベースに、サフォーク運動36年の歩みをお話いただきました。癖のない羊肉と良質な羊毛を生み出すサフォークは、士別市の知名度アップに十分貢献できたようです。話の中で井上様がおっしゃった、「羊は儲からない、難しい、だからこそチャレンジすれば日本一になるチャンスがある」と言ってサフォーク運動を先導された話は、特に私の心に響きました。

和寒町からは全日本玉入れ協会会長の巖田道悟(ほろたみちご)様が「全日本玉入れ選手権」の様子を、映像も交えて紹介していただきました。運動会的一种目ではなかった玉入れを、スポーツ競技として確立し、全日本大会の開催に漕ぎ付けた手腕は見事です。今では全国に「支部」が出来、大手企業のレクリエーションにも取り入れられているとのことでした。もちろん「全日本玉入れ選手権」は毎年開催されています。100個の玉をかごに全部入れきるタイムを競うスポーツ、歴代最高

記録は6秒51とのことでした。

お三方のお話を伺った後、B分科会参加者52名を交えて意見交換会を行いました。その中で今後の活動として、3名共に海外を視野に入れていること。某大手酒造会社からイベント協賛の誘いがあったときに、北海道はニッカだからと、地元愛に満ちた男気溢れる?返答で協賛をファイにした話などで盛り上がり、閉会となりました。

士別支部を構成する1市2町は、このようにまちの特色を自ら作り上げ、知名度アップからまちづくりにつなげていました。こういった活動は、地理的条件や歴史的背景に依存しないポジティブなまちづくりの例として、全道どの市町村でも参考に出来るのではないのでしょうか。

最後になりましたが、直近の地震や台風被害でお忙しい中、ご講演いただいた早坂様、井上様、巖田様、参加いただいた建築士52名、そしてスムーズな進行ができるよう、細部までキッチリ段取りしていただいた士別支部の方々に、感謝いたします。

## 分科会報告

### C分科会 C分代会準備から、テーマが決まるまで

青年委員会

青年委員会委員  
大平 健二 (留萌支部)



今年初めて本部の青年委員会に入り、第1回目の青年委員会で役割分担が決まりました。私も今年度より道北ブロック長を務めることとなり、又全道大会が道北の士別市で行われるということで士別支部との連絡をスムーズに進めるために、C分代会の担当を任せられました。特に何を決めないとならないか、などよくわからずに月日だけがただ流れ、不安を感じていたのを憶えています。そんな毎日を過ごしているうちに、もうテーマを決めないといけないという、時期まで来てしまいました。それが第2回目の委員会の日だったと思います。近藤青年副委員長から、ここに講演を依頼してみようかというところから始まり、そこで着目したのが士別の冬の寒さを利用した試験研究所でした。士別市の昨冬累積は8.5mの降雪があったり気温がマイナス30℃にせまる日が複数日あったり、夏は

30℃を超える、という我々建築士にとっても厳しい設計条件の地方の一つでもあり、そんな士別市内になぜ自動車テストコースの設立に至った経緯や、タイヤメーカーの試験・研究内容などについて講演を聞くのも面白いのではないかと、株式会社交通科学研究所所長、今田様に講師を依頼致しました。ようやく、テーマも決まり、その後は士別市に足を運び会場の下見に行きました。会場の広さ・備品などの確認受付場所はどこで行うかなど決め、やっと準備も終わり、本大会の日を迎えるところまでできました。

講演が始まる前は、誰もが建築とどのように繋がっていくのだから

うと思った方もいたかと思いません。ですが今回の講演を聞く上で建築に相通ずるところもたくさんあったと、感じられたのではないかと思います。厳しい条件下でタイヤなどの試験があり又、様々な路面状況で車がどのように止まるのか。すべて性能が求められる検査に合格し始めて商品となる。これはまさに建築にも言えることだと思います。今回は限られた時間の中で、沢山の興味深い話を聞くことができました。我々建築士会はそれを今後のヒントとしこれからのまちづくりや設計に生かしていきたいと思っております。参加人数は103名でした。以上C分代会の報告とさせていただきます。



講演の様子



報告発表

## 実行委員会報告

### 全道の参加者、本部ご指導に感謝！

全道大会実行委員会

士別支部事務局長  
佐藤 将吾 (士別支部)



昨年3月開催の支部役員会で大会テーマを協議開始して以降、月1回の役員会議論を経て、9月の本部理事会で開催日程とテーマが正式決定となっても、一向に準備は進まないまま、第42回後志大会の懇親会で次期大会PRをするため、士別支部初となる総勢16名による全道大会参加で倶知安町に伺いました。

ぶっつけ本番で臨んだPRでしたが、若干のアクシデントはあったものの、何とか無事終了し、ホテルの部屋に皆が集まった反省会で士別大会の成功を誓い合い、漸く全道大会開催を現実として捉え始めたと同時に、開催に対する大きな不安も感じたところです。

実行委員会組織は、紋別支部さ

んの大会資料を参考に検討を始めたのですが、何分にも、会員数が少ないため、全会員を配置しても組織図に空白箇所が目立ちました。

本年3月に「総務・広報」「財務」「事業」「懇親」の4部会とし実行委員会を組織しましたが、なかなか具体的な取り組みとはならず、先行する各分科会や青年サミットの検討状況が入るたび焦りを感じました。

実質的なスタートは、4月末の本部事務局・各委員会役員との分科会打合せに来市頂いた頃からと記憶しています。

基調講演には、東洋一のテストコースを誇る自動車試験場が市内にあるご縁でトヨタ自動車(株)のチーフエンジニアである田中義和氏を講師に決定し参加者に加え一般市民にも聴講してもらうことといたしました。

ポスターやリーフレット・大会資料配布用袋等のデザインは、天

塩川の写真で統一することとしましたが使用した写真も実行委員の一人が何度も現地に赴き撮影してもらいました。

A分科会は朝日町「糸魚小学校」、B分科会は剣淵町「絵本の館」、C分科会は式典会場と同じ「市民文化センター」と3会場に分散したためバス移動や会場準備、昼食手配や時間調整など少ない人員で対応できるか心配事が増えるばかりでありました。

盛り上がり欠けた実行委員会も開催日直前になって徐々に纏まりを見せはじめ、一気に準備がスピードアップし、大会当日の受付、分科会、式典、懇親会と比較的順調に乗り切ることができました。

これもひとえに参加頂いた多くの会員の皆様のお陰であり、特に、本部事務局にはきめ細かいご指導・ご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。第43回全道大会実行委員会の報告とさせていただきます。

## 基調講演報告

『トヨタの環境技術戦略並びに水素社会の実現に向けて』  
を拝聴して 講師：トヨタ自動車株式会社 エンジニア 田中義和 氏

情報委員会委員  
片岡 哲二（札幌支部）



講師である田中氏は地球温暖化や環境汚染、石油など化石燃料の枯渇が心配される中、トヨタが2014年12月に発売開始した究極のエコカー「MIRAI」や「プリウスPHV」の設計開発の責任者として現場の指揮を執り続けてこられた方です。トヨタエコカーの最先端の開発を続ける田中氏が長いチャレンジといえるFCVに思う持続可能な社会への貢献、そしてその一役を担う「MIRAI」の環境性能や開発秘話などについてお話し頂きました。

エコカーの開発経緯やご苦労、発売前の豊田社長とのやりとりの秘話などを興味深く拝聴させて頂きました。又、究極のエコ社会である水素社会へのチャレンジははじまったばかりで、発電した電気は貯えたり運んだりすることが難しい性質ですが、水素に変化させることでそれが容易になること。「MIRAI」を成功させて水素社会を牽引したいとの熱い思いが強く伝わるすばらしいお話でした。



基調講演の様子

## 情報委員会報告

### 士別

情報委員会副委員長  
森 勝利（日高支部）



2014年の旭川大会から取り組み始めた号外発行。たくさんの方々にご協力いただき、今大会でも無事、懇親会場にお届けすることができました。役員改選もあり、はじめての経験となる担当者もおりましたが、役者が違うと言わんばかりに、きっちりと結果を出してくれました。このスキルがあれば来年の全国大会（北海道大会）でも何らかの形で情報をお届けできるのではないかと思いますし、また、期待する声も寄せられています。2019年9月21日、函館アリーナで答え合わせしましょう。今年度の担当割は次のとおりでした。



式典・森 副委員長、A分科会・早川 副委員長  
B分科会・熊谷 委員、C分科会・村山 委員  
被災地応急支援委員会・前田 副委員長  
編集校正・斎藤 委員長

タイトルの意味にお気づきの方へ、終わり良ければすべて良しということで、お許しください。

## 被災地応急支援委員会報告

### 体験コーナー ミニペーパー机上訓練

被災地応急支援委員会委員長  
小町 美穂（札幌支部）



今年から本委員会開催の「北海道建築士会応急危険度判定士認定講習会・机上訓練」が認定講習会となりました。そこで判定業務の体験コーナー「ミニペーパー机上訓練」を開催し、分科会などの空き時間を利用してではありましたが30名ほどの方に体験をしていただきました。体験した方からは、「胆振地方東部地震を経験し事前の準備が必要と感じたことから机上訓練体験版に参加しました」などの声がありました。この機会により多くの会員さんの机上訓練の参加を期待しております。

また、参加した方、ご希望の方に昨年作成した防災本「守ろう命!!」をお配りしました。こちらの防災本は小学校高学年～中学生を対象に作成しており災害などに対して事前の準備から発生後の対応など分かりやすく漫画仕立てで作成したものです。皆さんの支部や町内会や学校などでご用命がありましたらご一報いただくと幸いです。



「体験の様子」



「防災本」

## 青年サミット報告

### 青年サミット

青年委員会副委員長  
近藤 真人（小樽支部）

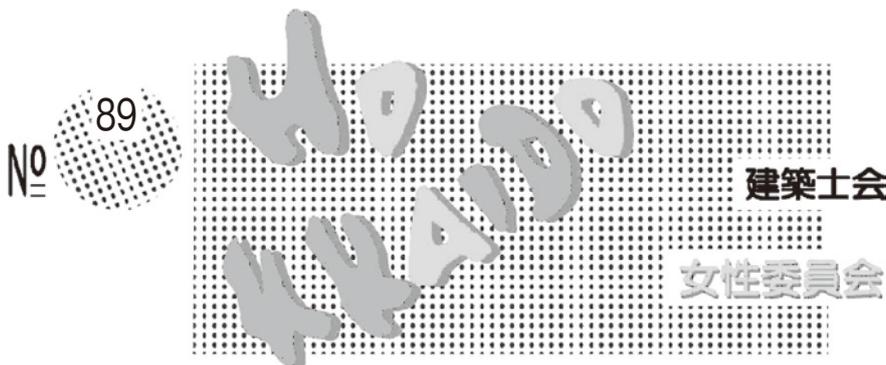


本年度、士別全道大会前夜祭としての青年サミット「拡げる・深める」をテーマに、士別市内を一望できる丘の上にある「羊飼いの家」にて開催しました。青年サミットとしては、過去まれにみる80名以上の参加をいただき、ここに感謝いたします。連合会はじめ、来賓の方々も多数出席いただきました。士別名産でもあります、羊サフォーク種を美味しくまた楽しく頂けたものと思います。また、恒例ではありますが、各支部からのお土産も多数頂き重ねてお礼申し上げます。

私は今回初めて、青年委員として参加して、司会をさせて頂きました。昨年までは参加者の一人としてでしたが、今回は企画・準備等させて頂き大変勉強になりました。なにより士別支部青年委員の方々には大変お世話になりました。二次会もほぼ各支部青年が参加して大いに盛り上がりを見せてもらいました。この勢いは来年の全国大会函館大会、さらには再来年の全道大会網走大会にも拡げていきたいと思っております。この青年の絆をもっと、もっと深め今後の建築士会活動を楽しみ、有意義なものとし今後も青年委員会を通し、皆様のお役に立てるようと思っております。来年また会いましょう!!



サミット様子



## 「女性建築士の集いIN旭川」を終えて

稲場めぐみ（室蘭支部）

今年度の女性建築士の集いは、旭川にある北海道立総合研究機構（道総研）建築研究本部の施設「北方建築総合研究所」の見学を行いました。土別での全道大会翌日の10月7日、台風の余波で交通機関が乱れる中でしたが24名が参加し、北海道の建築、まちづくりに関する技術と研究開発について学ぶ有意義な時間となりました。

まずは庁舎の建設時の様子や概要がまとめられたDVDを視聴した後、道総研の松村さんと馬場さんの案内のもと、2グループに分かれ施設を見学しました。

研究所庁舎建物は、以下の3つの環境負荷低減技術を用いて建設されています。

### 1. 自然換気

風やアトリウム内の上下温度差による気流など、自然の力を活用した換気システムの導入により、換気動力エネルギー消費が削減されています。当日は、この温度差換気を体感。執務室の腰壁にあるガラリを開けた状態でアトリウムの天窓を開けると、ガラリからの給気量が一気にUPし、自然換気の威力を感じる事が出来ました。この換気システムを利用すると、夏でも午前中は冷房無しで過ごすことができるそうです。

### 2. 昼光利用

窓外側の庇や内側のライトシェルフを利用し、直射日光を拡散、反射光を利用するほか、アトリウ

ムからの自然光も活用することで、執務室の照明エネルギー消費が大幅に削減されています。日中の80%以上は人工照明いらずとのことで、気持ちの良い省エネが実現されていました。



昼光利用に配慮された執務室

### 3. 氷・雪冷房

厳冬期の冷たい外気により生成した氷と敷地内に降り積もった雪を保存し、夏季に外気を冷却し執務室に送風する冷房システムが導入されています。

また、研究所には室内環境シミュレーター室や風雪実験室など14の実験設備が備えられています。実験が休みとなる日曜日見学の特権！多くの設備を見せて頂くことができ貴重な経験となりました。



アトリウムでの集合写真

施設見学後は、レンガ倉庫群“蔵囲夢”内にある「大雪地ビール館」でランチを楽しみ、今年度の集いを締めくくりました。

## 建築・インテリアのプロが描くスケッチパース

～スケッチパースで絵会話を身に付けよう(初級&中級編)～

高見 友子（旭川支部）

一昨年、昨年と札幌で好評だったパースの講習会 飯田公久氏を講師に迎え、旭川で初めて開催しました。有料のため参加者数が心配でしたが、札幌支部や色々な方の協力もあって、函館支部や北見支部からの参加もあり定員いっぱいでの開催でした。手狭になった会場で作業スペースが確保できるか心配でしたが、飯田先生が机の配置を考えてくれて会員の協力で机配置を入れ替えてなんとかスムーズに開催できました。

2日間は、ほんとうに“目からウロコ”の連続で、自分でもこんなことができるのねーと思ったり、意外と物を見ているようで実は見ていないことに驚いたり（3回目の参加ですが何回やっても驚きます）思うようにならないこともたくさんあり頭も使って疲れましたが、楽しい内容でした。

2日目は、課題を完成させて都度先生が添削しながら実技も見せての丁寧な指導をしてくれるので、難しくても人より進みが遅くても、なんとか少しづつでも進めることができました。参加者も疲れましたが、先生は朝からずっと説明と指導で疲れたのでは？と心配です。アンケート結果では、次回も参加したいとの希望が多数でした。

また開催できると良いですね。



全員顔が見えるよう複雑な机の配置！

## CPD認定プログラム(11月認定)

- ◆**中大規模セミナー (DVDセミナー)**  
 〈日程及び会場〉 12月5日(水) 13:30~17:00  
 北海道第二水産ビル  
 〈単位数〉 4単位  
 〈問合せ先〉 (一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

## 道士会の動き

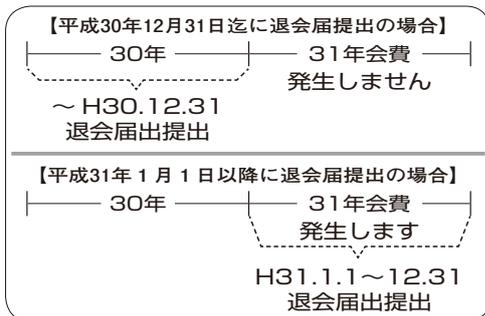
### 道本部の主な会議報告 (11月)

- ◆**第3回青年委員会**  
 〈開催日〉 11月10日(土)  
 〈議題〉 1) 平成30年事業報告、平成31年事業計画・予算等
- ◆**第3回女性委員会**  
 〈開催日〉 11月17日(土)  
 〈議題〉 1) 平成30年事業報告・収支状況等
- ◆**第3回総務委員会**  
 〈開催日〉 11月17日(土)  
 〈議題〉 1) 平成30年第5回理事会議案及び報告事項等
- ◆**第3回まちづくり委員会**  
 〈開催日〉 11月24日(土)  
 〈議題〉 1) 平成30年事業報告、平成31年事業計画予算案等

### 道本部の主な行事予定 (12月)

- 1日(土) 第2回情報委員会
- 3日(月) 第5回ありかた検討委員会
- 7日(金) 第5回理事会

## 平成31年会費関係スケジュール



平成31年会費請求を11月上旬に郵送いたしました。本会の会費は、年会費(1月~12月)の一括納付(会費規則第2条1項)平成31年3月31日迄となっております。年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。都合によりやむを得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

【お問合せ先】(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

## 編集後記

まずは、10月5日~6日に行われました第43回全道大会(土別大会)に際しまして会員皆様には多数のご参加、並びにご協力賜り誠にありがとうございました。

号外(土別大会)からの今月号(特集)の編集作業を終え、達成感を味わうことが出来ました。

少ない人数での運営ではありましたが平成最後の全道大会をより素晴らしい物にと会員一丸となったと思います。

それでは皆様、かぜ等体調には留意しお過ごしください。

情報委員会 柏倉 晶憲(土別支部)

## 【西日本豪雨災害義援金拠出のご報告とお礼】

先の西日本豪雨で被災された方々への救援や復興に役立てていただくための義援金の拠出につきまして、多くの会員の皆様方からご拠出いただき心より感謝申し上げますとともに、各支部におかれましては、会員の方からのご拠金をお取りまとめいただき、誠にありがとうございました。皆様からお預かりした義援金をもとに北海道建築士会から400,000円を、中国・四国建築士会ブロック会幹事県の一般社団法人香川県建築士会へお送りいたしました。

## 【平成30年北海道胆振東部地震住宅の復旧・再建に向けた無料相談会の実施】

北海道胆振東部地震で住宅の被害を受けた被災者の住宅復旧、再建を支援するため、道庁主導により北海道建築士会を始め、建築関係7団体で構成する「平成30年北海道胆振東部地震住宅復旧・再建支援連絡会議」が開催され、取組の一つとして厚真町、安平町、むかわ町の3町で住宅の被害にあわれた方々を対象に、平成30年10月17日から30日の2週間にわたり相談会が実施されました。

本会から相談員として、苫小牧支部の北村 啓様・加藤 優次様・西尾 茂様、室蘭支部の川田 寿之様、日高支部の山下 聡様・村田 貞光様・草野 潤様・森 勝利様・高橋 幸二様、の9名の方々に対応していただき、本会からも感謝申し上げます。

相談会には、厚真町で43組、安平町で17組、むかわ町で8組の合計68組の相談者が訪れ、相談の結果、安心して帰られる方も多く、被災された方々のお役に立つことができました。

## 平成31年専攻建築士登録申請受付のご案内

### ？ 専攻建築士になるには・・・(新規認定の要件)

- ・「CPD」を行っており、過去1年間(平成30年1月~12月)に12単位を取得している
- ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある
- ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」(要第三者による証明)が3件以上ある  
 ※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

### ◆専攻建築士認定申請について

- 〈受付期間〉平成31年1月4日~2月28日(当日消印有効)
- 〈申請書〉北海道建築士会HPよりダウンロードできます。
- 〈申込〉申請手数料(審査手数料・登録料)の振込控えを申請書に添付し北海道建築士会へお申込みください。

### ◆専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)

情報委員会委員長/斎藤 勝哉  
 副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁  
 委員/熊谷 智・柏倉 晶憲  
 村山 賢司・片岡 哲二

## 北海道建築士 No.256号

印刷 平成30年11月/発行 平成30年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
 大五ビル  
 電話 (011)251-6076番  
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
 電話 (011)811-7151番